

時事文における属格 Japan's と形容詞 Japanese の 使い分けとその心理的効果に関する一考察

野見山 寿 美

The Difference between the Usage of “Japan’s” and “Japanese” in Time

Sumi NOMIYAMA

1. はじめに

時事英文の特色は多々上げられる。見出しのような特徴の著しい部分を除いて本文に限ったとしても、「時制の不一致」「分詞構文の多用」「文修飾副詞の活用」「動詞や形容詞の名詞化」など数多く上げることが出来る。その中でも時事英文の最大の特徴の一つと言っているものに「無生物＋アポストロフィ S」, つまり無生物の属格がある。

本来, 英文法の一般理論としては, アポストロフィ S をつけて属格(学校文法で言うところの所有格)を作ることができるのは生物と, 慣用的に用いられるごく一部の無生物である, とされている。従って,

- (1) I don't remember the man's name.

と言うことは出来ても,

- (2) *One of the table's legs is broken.

とは言えない。

しかしこれはあくまで原則であって, この規則が現在著しく破られている例は時事文に限ったことではなく, エッセイや小説の類でも見られるようになった。「無生物＋アポストロフィ S」による属格は現代英語の特徴になろうとしているようにも見える。がしかし, まだまだ一部であって, 全体として of 属格の方が圧倒的に優勢であるのは言うまでもない。

時事文において属格として多く見ることができるのは, 国名, 地域名, または country, nation, region といった名詞である。

- (3) The administration, trying to moderate Taiwan's push for greater recognition, last

September announced several revision in U.S.-Taiwan policy. (Asahi Evening News May 23, 1995)

- (4) It was the nation's first case in which a doctor was accused of killing a patient at the request of the patient's family. (The Japan Times Mar. 29, 1995)

これは、このような地名や名詞が政治経済上の行政単位としての無生物的側面と同時にあくまで人間によって構成されているという生物的側面、つまり意志も感情も持った集合体としての側面をも合わせ持っていることが理由の一つとして上げられよう。

今回、本論では Japan's を取り上げる。文字通り翻訳すれば「日本の」になる Japan's が現代の時事英文に多く用いられるのは想像に難くない。では同じ「日本の」に相当する形容詞 Japanese との相関関係はどうなっているのだろうか。時事文を読むと、頻繁に Japan's や Japanese が用いられている。別に意識しなければ、共に「日本の」で片づけられる表現である。ところがこうも頻繁にこの2者を目にすると、筆者は一体何を根拠にこの2者を使い分け、またその使い分けに何を期待しているのか、その両者が与える印象、心理的効果には違いがあるのだろうか、様々な事が気になってくる。結論を急げば、多分 Japan's と Japanese にははっきりとした線を引けるほどの違いはなく、たいていの場合には置き換え可能であり、わずかなニュアンスの違いがこの両者が共存する理由かもしれない。しかし、国名、地名のアポストロフィ S による属格の多用がこの先時事文を中心に増えて行く傾向にあるのは確かで、それでは何故敢えてこの形を用いるのか、その答えともなるこの問題を考えるのも無意味ではないように思う。ここで用いる資料は、1995年1年間に“Time”誌が取り上げた日本に関する記事すべてを対象にして、その中から取り出したものである。

1995年1年間で“Time”誌に出てきた Japanese と Japan's の数を単純に示してみる。

Japanese 216

Japan's 122

これはあくまで日本に関する記事の中からのみ取り出した数であり、“Time”誌全体と言うことではない。単純にみると Japanese のほうがかなり多いが、この中には下に示すように「日本語の」「日本人の」に相当する場合もある。以下の例文はすべて“Time”誌より引用した。

- (5) After a visit to a Himalayan retreat, he boasted of having achieved satori, the Japanese term for nirvana or enlightenment. (Apr. 3)

- (6) The right spoke just as shrilly about the loss of Japanese spirit and soul. (Aug. 7)

簡単に言えば、Japaneseの方が守備範囲が広いということになる。あくまでも「日本の」という訳語に相当させために、敢えてこの「日本人の」「日本語の」を除くことにした。しかし実際の所、この区別さえも曖昧な場合が多々ある。例えば、Japanese stoicism は「日本人の禁欲主義」なのか「日本の禁欲主義」なのか、単にコンテキストだけでは判断できず、結局は書き手の判断に

まで戻って行くしかない。今回その場合はできるだけ多くの例を比べたいという理由で、「日本の」の方に分類することとした。結果は以下の通り。

Japanese 181

Japan's 122

2. 属格の意味区分の確認

Japanese と Japan's の使い分けについて述べて行く前に、ここで属格の持つ意味区分を確認しておきたい。「アポストロフィ S」は属格を表す屈折であり、あくまで文法機能を表す一標識に過ぎないが、その意味上の区分を考えると単純なこの形には多くのものが含まれることがわかる。日本で教えられる「所有格」という言葉に代表されるように所有の意味のみでこの属格が使われているのではないことがはっきりする。

それでも、最も一般的かつ分かりやすい属格の意味として「所有」がある。資料としてここに取り上げた Japan's の 122 の例のうち、およそ 3 分の 2 の約 80 例がこの「所有」の意味を待つ。

(7) That poses a problem: Japan's home field is too small to give its technology titans enough space to train for the new game. (Feb. 27)

(8) Fifty years ago, Japan's secret police locked up anyone who opposed "state Shinto". (Nov. 20)

(7)(8)のように「日本が所有している」「日本に帰属している」というような意味を持つ属格である。何故「所有格」という言葉がアポストロフィ S に当てはめてこうも広く一般的に使われているのかがはっきりする結果である。

しかしながら、アポストロフィ S の働きはそれだけではなく、主語属格としても機能する。次のような例文が上げられよう。

(9) In either case, the demise of Japan's reliance on industrial investment and exports is the most important shift in recent Japanese history. (Jul. 7)

(9)のように Japan が後続名詞の意味上の主語に相当する場合。他にも、Japan's offer, Japan's invasion, Japan's dramatic victory, Japan's astonishing success, Japan's attempt など Japan's を主語属格として用いた例は全体の約 4 分の 1, 約 30 例を上げることが出来る。

その他、目的語属格として用いられる Japan's の例がある。勿論 Japan が後続語の目的語になっている場合である。これは多くの英語学者が指摘しているように、主語属格ほどの頻度では用いられない。「現代ジャーナリズムでは増えつつある」(A.S.ホーンビー「英語の型と語法」)と言われているが、この資料の中ではわずかに(10)の例だけで見る事ができた。

(10) They are still important for Japan's defense, especially given tension with North

Korea and China.

(Oct. 2)

さらに、

- (11) The right wing insists that Japan's "guilt" is a fiction created by Japan's conquerors. (Aug. 28)

の場合を考えてみると、Japan's guilt は主語属格とももしくは原因や出所、創始などを表す起源属格とも判断し難い。このように属格を意味の上で明確に区分することが難しい、もしくは不可能な場合もあるし、また明らかに意味が重複する場合もあることに注意しなければならない。

その他に考えられる属格として、尺度を表す属格がある。時や距離を表す名詞が属格になって用いられる例で、ten days' absence, a yard's distance などに見られる。他にも同格の属格、部分属格、素材の属格などと呼ばれるものもあるが、現在ではその多くが of 属格を用いているし、Japan's の例からは離れるのでこれ以上語る必要はないであろう。

ここで特に触れておきたい属格に、特質または記述の属格がある。例えば、a child's language や mother's love のように属格が形容詞的な働きをする場合である。A childish language, motherly love の意味を含む表現である。この意味で Japan's が用いられるであろうか。Japan's は Japan を所有、帰属、動作主もしくは動作の対象者としての集合体と見なすという考え方で用いられるのであり、非常に具体的、具象的な意味しか有していない。従って、上例のような「子供っぽい」「母親らしい」に相当する「日本的な」「日本風の」と言う意味合いで Japan's を用いることはできないし、その例も見あたらない。従って、Japan's bureaucratic way of thinking は「(個人の集合体としての) 日本という国が持っている官僚制的考え方」であって、「日本流の官僚制的考え方」と取るべきではないと考える。

3. 形容詞 Japanese の意味区分について

次に形容詞 Japanese の意味区分について考える。英和辞典で調べると、大方の辞書、辞典には、「日本の、日本人(語)の」という訳を載せている。もう少し詳しく考えてみると、Japanese には、①「日本の国の、日本に属した、日本所有の」、という比較的単純で具体的な意味と、②「日本風の、日本的な、日本式の」、という多少曖昧さの増した意味とに分けられそうである。

まず①の用法で用いられる Japanese について考えると、この「日本の」という日本語訳にもかかなりの幅があり、Japan's との違いを明らかにする目的で、その「日本の」を先ほどの属格の意味区分に当てはめて考えてみたい。まず第一にその用法として多く用いられているのは Japan's と同様に所有の意味である。Japan's よりも更に多く、140以上、8割強の例において所有の意味で Japanese を用いている。

- (12) It was worth nearly three times as much against the Japanese currency and twice as much against the German-238 yen and 2.94 marks. (Mar. 20)

- (13) Nomo made the Japanese All-Star team in each of his five seasons with the Kintetsu Buffaloes. (May 15)

やはり Japan's と同様に Japanese の意味上の区分にも多少の曖昧性はあって、例えば、

- (14) Asians whose goods compete with Japanese products are also profiting from the overpriced yen. (Mar. 20)

のように、「日本のものである」という所有と「日本が作った」という起源の両方の意味に考えられる場合があることも認めざるを得ない。

また Japanese にも主語としての働きがあるが、Japan's に比べれば例は少なく 1 割に満たない。(15)の例以外にも、Japanese parliamentary resolution, Japanese retreat, Japanese invasion, Japanese reaction などの例が見られた。

- (15) The likely future PM is a strong supporter of a more independent defense posture, a permanent seat on the United Nations Security Council and Japanese participation in non-combat U.N. peacekeeping operations. (Sep. 25)

目的語の意味で用いられた例は見あたらない。Japanese を目的の意味で用いることができるのだろうか。例えば Japan's occupation は「日本が（他国）を占領すること」とも「（他国）が日本を占領すること」とも理解可能である。しかし、Japanese occupation を「（他国）が日本を占領すること」と解することは可能であろうか。これはネイティブの英語話者に確かめたところによると、「日本が（他国を）占領すること」より可能性は低いとしても、コンテキストによっては「（他国が）日本を占領すること」の意味に解釈することは十分可能である由であった。従って、今回集めた資料の中にはなかったけれど、Japanese を目的語の意味で用いることは出来るという結論を導き出しても良いということである。しかし例が極端に少ないという事実から、Japanese が目的語として用いられる可能性はきわめて低いと言っておく必要はある。

次に、②の用法、つまり「日本的な」「日本式の」の訳に当たる用法について見てみることにする。この用法は属格でいうと「特質」「記述」の属格に相当すると考えられ、後続語の特色、性質について記述する。

- (16) The work and materials needed to reinforce a typical Japanese house might cost \$ 20,000. (Feb. 6)
- (17) No less concerned about the Japanese reaction, U.S. officials considered asking top military commanders in Japan to step down as a way of showing their remorse in a very Japanese way. (Sep. 6)

(17)の例文中の Japanese reaction は主語、Japanese way は特質を表している。このように、特質を表す Japanese の例は多くはないが、全 Japanese の例の中で主語の用法程度、1 割弱で用いられていた。これは Japan's とは明らかな違いを示すものである。

4. 後続名詞による区分

次に、後続する名詞による区分を考えてみたい。まず結論を簡潔に述べるならば、あらゆる名詞が後続されており、生物、無生物に限らず Japan's, Japanese と共に用いられている。特に後続名詞が無生物の場合は両者の間にはほとんど違いはないと言って良いだろう。Industry, bank 等の具体性のあるもの、miracle, growth, protectionism 等の抽象性の高いものを比べてもそれほどの違いは見あたらない。

その中で多少なりとも違いが見受けられるのは、後続名詞が人間を含むものの場合である。例えば government や companies 等はほとんど同程度の頻度で用いられている。では、government や companies という、人間の集合体ではあるが、あくまで組織という無機質なものの以外ではどうであろうか。言うならば、government というハードウェアに相当する言葉に対して、Prime Minister や bureaucrats というソフトウェアに相当する言葉について見てみると、数の上ではそれほど大きな違いはない。

(18) His boss, MITI Minister Ryutaro Hashimoto, may have strengthened his already bright chances for becoming Japan's next Prime Minister. (Jul. 10)

(19) He's strong, tough negotiator not in the mold of the deferential, consensus-seeking Japanese Prime Ministers of the past. (Sep. 25)

しかし、次のような例を考えてみよう。

(20) Tadao Ando, Japan's self-taught minimalist designer, is this year's Pritzker laureate. (Apr. 24)

⑩ UNHCR's pace and tone are set by its commissioner since 1991, Japan's Sadako Ogata, 67. (Oct. 23)

この他、Japan's golden pair, Japan's trade warriors 他があり、これは時事文においての無生物属格の特徴的用法であると思われる。Japanese を用いた Japanese consumers や Japanese doctors が「日本在住の」「日本出身の」「日本国籍の」という比較的平面的で単純な事実を述べているだけの用法であるのに比べ、上述の Japan's を用いた例文には「日本を代表する」「日本で選ばれた」といった特別の意味を含ませていると思われる。

これは、大げさな意味での強調であるとは言えないけれども、Japanese を使わないことで一種の違和感による強調を無意識のうちに作り出している。

5. まとめ

今まで述べて来た事柄をここで整理しておく。まず、その他の文章、例えば小説やエッセイ等に比べて時事文では Japan's を多く用いる傾向がある。Japan's は Japanese に匹敵するほどの市民権を得たきたわけである。しかしこれはあくまで時事文に限る傾向であって、その他の文章ではその例が極端に減る。従って、無生物のアポストロフィ S 属格の使用頻度は時事文に限って高いとい

う傾向はここしばらくは続きそうである。

その時事文であっても、Japaneseの使用頻度はJapan'sよりも高く、まだJapaneseの方が優勢である。その理由として考えられるのは、まず「日本人の」「日本語の」という意味をあわせ持っているJapaneseの方が守備範囲が広いこと、「性質」「特質」を表す記述の用法がJapaneseにはあること、また平面的、単純な意味での「日本の」を表す際にはほとんど無制限に使用できること、等がある。

それに対して、Japan'sは文字通りの「日本の」の意味に当たり、「日本流の」式の記述用法がない反面、主語属格を作る場合がJapaneseよりも多い。これには、Japan'sがJapaneseよりも、集合体として意志や感情を持った存在として認識されているゆえではないかと考える。単に歴史的事実を述べるJapanese invasionよりも、Japan's invasionの方が日本人の意志決定である旨が伝わるはずである。Japan'sやJapaneseを後続名詞の意味上の目的語として用いる例はきわめて少ない。文法上この両者を目的語として用いることが可能であったとしても、主語属格との混同を避けるために、この用法が用いられる可能性はきわめて低いと思われる。また、同じ「所有」の意味で用いるJapan'sもJapaneseに比べると「思い入れ」の程度が少々強い。しかしこれは書き手の恣意的判断に任せられるものであって、どこまでそれを意識して用いているかまでは判定しかねるのは勿論である。

最後に、些細なニュアンスの違いに目をつぶるならば、記述用法を除くほとんどの例文でJapaneseとJapan'sは置き換え可能であるということを、言っておかねばならないだろう。

参 考 文 献

- 宮部菊男 英文法シリーズ「格と人称」 1954 研究社
 大塚高信・岩崎民平・中島文雄監修 英文法シリーズ 1979 研究社
 石橋幸太郎・大塚高信・中島文雄監修 不死鳥英文法ライブラリ13 「R.W.サンドヴォールト」
 1971 南雲堂
 金口儀明 現代英文法講座 「名詞・代名詞」 1958 研究社
 石橋幸太郎、他編集 英語語法大辞典 1966 大修館
 Curm, George O. Principles and Practice of English Grammar 1946
 Barnes & Noble, INC., New York
 Close, R.A. English as a Foreign Language 1976 George Allen & Unwin Ltd.
 Hornby, A.S. Guide to Patterns and Usage in English 1975
 Oxford University Press
 Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., Svartvik, J.
 A Comprehensive Grammar of the English Language 1985 Longman
 Quirk, R., & Greenbaum, S. A University Grammar of English 1977 Longman

[1996年12月10日受理]